



ニュースレター

発行 狭山市国際交流協会

239号
2018/9

酷暑の中！狭山市入間川七夕まつり

SIFA テントで国際交流を体験

「今日は気温が高くなる予報となっています。屋外での活動はなるべく控え…」という市役所の放送が当日も入りました。そんな例年にない程の酷暑の中、七夕祭りが8月4・5日に開かれました。今年のSIFAのテントは4日だけです。

英語に親しもう

13時と18時からの、2回の「英語に親しもう！」（英語で短冊に願いを書こう！）（ワージントン市にメッセージを書こう）に、狭山市の女子サッカーチーム『ちふれエレフェン埼玉』の選手を初めとして中学生から大人まで、英語でそれぞれの願いや思いを書いてくれました。『USAに行きたい！』という短冊もありました。どのように表現するかわからないところ等は、アンドリュースさん（豪）、マットさん（米）が丁寧に教えてくれました。ワージントン市からのメッセージにあった『Have a good summer!』は七夕祭りにピッタリでした。



タイの踊り

日本語教室で学んでいるタイ出身の荻原タナリンさん、ポーティ・アヌラックさん、柴崎さんは、盛夏に映える鮮やかな色の民族衣装を身に着けて会場に。祭りの時の踊りを披露した後、木を使ったタイの昔の遊びを実演、紹介してくれました。「丸い木をあごに挟み、片足を上げて、離れたところに置いた四角い木の近くまでケンケンで行って、丸い木を四角い木にぶつけて倒す」—どこかなつかしい感じがします。



「パティック染め」

リタさん（フィンランド）は、インドネシアのジャワ島のジョクジャカルタで4年程本場のパティック染めを学び、テーブルクロス・スカーフ・Tシャツなど多くの作品を作ってきたそうです。日本の筆を使うろうけつ染めと異なり、金属の道具（チャンティン）を使って下絵にろうを引く様を見せてくれました。いくつもの工程を経て完成。桜をモチーフにしたのれんを

初めとするすばらしい作品に、テントの外にいた人にも声をかけ、見てもらいました。また冬が長いフィンランドでは、とても沢山の野の花で家を飾り、夏の白夜を祝い楽しむそうです。

「民族衣装で母国の文化紹介」ナイジェリア

入間市の小学校に勤務しているチニゼさんは「ナイジェリアの子も日本の子も変わらない」「ナイジェリアは暑いけど蒸さない。雨季・乾季の他、ハルマッタンという時季があり、雪は降らないが、風が強く霧が発生し、危ない」「日本の家屋は狭くてびっくりした」「銃がない、安全な日本が大好き」ナイジェリアの約束は、1時間遅れは普通だそうです。「平均寿命が53歳」には皆、びっくりでした。



フィリピン舞踊

あじさい祭りに次いで今回もフィリピンの人たちが、金色の自作の衣装を身に楽しい踊りを披露してくれました。「ウナウナパヤパヤ…」と軽やかなリズムに、周りで手拍子をしながら見物している人も楽しげです。イスラムの人がよく踊るとか。以前、もっとゆっくりだったその踊りは、今は速くエキサイティングになっているそうです。

踊りを中心に、テントを訪ねてくれた人は100人近くになりました。

テントの設営、展示物・冷たい飲み物等諸々の準備、受付、片づけなど担当したスタッフの皆様、暑い中、本当にお疲れ様でした。 広報部会 齋藤あや子 記

SIFA 連 阿波踊り

8月5日（日曜日）、今年も入間川七夕まつりでSIFA連が阿波踊りを披露しました！

午後2時、中央公民館第一ホールには中国、ベトナム、フィリピン、ブラジル、タイからの外国人参加者をはじめ、SIFAスタッフやボランティア参加の日本人など総勢70名が続々と集まってきました。SIFAの青いはっぴや浴衣をまとった仲間たちと、一年で一度限りのSIFA連の結成です。今年も日高市から兎乃月連の皆さまが私たちSIFA連のバックアップに駆けつけてくれました。ふれあい部会の奥田さんの指導のもと、みんなで練習開始、各国ごとに列になって、国旗のついたうちわを持って何度も練習です。初めて阿波踊りに挑戦する人も毎年このSIFA連で踊ることを楽しみにしている人もみんな笑顔でいっぱいです。初めて阿波踊りに挑戦した外国人は、右手と右足を同時に前に出す阿波踊り独特の動きにちょっと苦戦している人も。兎乃月連の鳴り物が刻む軽快なリズムにみんな自然と体が動き出すように楽しんでいます。

本番会場はこの夏の猛暑に人の熱気も加わってとても熱い空気。八幡宮下の第一会場、イオン前の第二会場、そしてフィナーレの8連合同の総踊りと…たくさんの観衆の中で、私たちSIFA連はみんな笑顔で練習の成果をしっかりと見せてくれました。今年のSIFA連の見せ場は、昨年この場に参加したことにより本格的に阿波踊りを始めた子供たちの演舞。日本の文化を学びたい、外国人たちと交流を持ちたい、楽しい時間を共有したいという気持ちをもった仲間たちが集まって作り上げたSIFA連は、それぞれの気持ちが表れたような、すがすがしい笑顔で堂々とした素晴らしい阿波踊りを見せてくれました。

SIFAの提灯高張やのぼりをもって満面の笑みで踊り歩くベトナム男性、このまま浴衣をずっと着ていたい！このはっぴと足袋を持って帰りたい！とうれしそうに話すタイの人たち、ブラジルの人たち。中国からの親子もとても楽しかったと名残惜しそうでした。参加者のみなさん、お疲れさまでした！ぜひ来年も一緒に踊りましょう！

広報部会 吉沼実理 記



2018年 外国につながる子供の高校進学ガイダンス

夏休み最初の週末の7/21日（土）所沢市こどもと福祉の未来館で開催されました。猛暑の中、参加した人たちで冷房完備の会場は熱気に包まれていました。

相談者20組35人、教師・通訳・先輩15人、スタッフ19人、見学者8人の合計75人の参加者の意気込みや想いが熱気になっているようでした。

会場内は英語・タガログ語、中国語、スペイン語・ポルトガル語、やさしい日本語の4つのブースに分かれ、それぞれにスタッフと通訳ボランティアが付いていました。

充実した高校と短大生活を上手な日本語で紹介したのは、緑陽高校卒業の中国から来た笑顔が素敵な女性でした。進学を目指す中学生には、とても良い刺激になったようです。

その後、教育委員会と高校教師から具体的な高校進学についての話がありました。参加者は来日日数により、また親の意識などで理解度も異なるようでした。

休憩の後、各ブースに高校の先生が順番に回り、生徒たちの質問に答えていました。印象に残ったのは日本では95パーセントが高校進学し、もしこれからも日本で暮らすならば高校を卒業しないと、就職などで希望の職種に就くのが難しい事、高校では日本語で授業が進められるので、日本語の勉強が大事な事などです。

最後の相談者の感想では、「いろいろ迷っていたので、今日来てとても良かった」「イタリア人のハーフです。いろいろな人の話が聞けてよかった」「楽しかった。ありがとう」などでした。帰る姿は皆さん少し自信にあふれていた様に見えました。

広報部会 小池律子 記



★問合せ・申込み：狭山市国際交流協会・事務局

（狭山市役所 2F 市民文化課内）

〒350-1380 埼玉県狭山市入間川 1-23-5

・Tel / Fax : 04-2952-4584

（月・火・木・金 9:00~16:00、水・土・日・祝日は休み）

・E-mail : sifa2@nifty.com

・ホームページ : <http://sifa.information.jp/>

又は、[狭山市国際交流協会](#) ← [検索](#) クリック

編集後記

酷暑の中実施された入間川七夕まつりでした。初日の人出は、狭山の繁栄を思わせるものでしたが2日目は市民のみなさんのお疲れか？浴衣が汗で着られなくなったのか？人出は半減でした。来年は何か素晴らしいイベントで皆さんの足が狭山に向くようにしなければと思いました。

角田栄子